

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 協同福祉会	代表者	大國 康夫	法人・ 事業所 の特徴	10の基本ケアを柱とし、ご本人が住み慣れた地域で最期まで、その人らしく生活出来るよう支援しています。事業所としても、本人や家族のニーズを聞き取り柔軟なサービスを組み立てながら、暮らしを支えられるよう取り組んでいます。
事業所名	あすなろホーム東生駒	管理者	廣瀬 壮啓		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・ 地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	1人	人	2人	1人	人	16人	人	21人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	学習会開催の呼びかけから、もっと地域に出向き声をかけていきたい。	運営推進会議での発信にとどまり限られたメンバーの参加になっている。	より多くの方の意見を聞き、良い事悪い事もしっかり受け止めていく必要がある。	サロン活動に参加された方へも発信を行い、より多くの方に参加してもらえるようにする。
B. 事業所のしつらえ・環境	次年度も、感染症対策は継続して行っていき、且つよりよい環境づくりを行っていく為、5S活動は継続して取り組む。	換気消毒を徹底。職員の手洗い、消毒方法の見直しを行い、集団感染を防げた。	不用品が多く、場所を取っていることがあるので、物品の整理をしたい。	外部の方が訪ねて着やすい、玄関にする。不用品は捨て、スペースを確保し整理整頓をする。
C. 事業所と地域のかかわり	サロン活動の再開を目標とし、まずは地域の方との関わり(繋がり)をどのようにしていくか、事業所で話し合いながら具体化したい。	月1回のサロン活動を再開。地域との関わりは限られた方のみであるが、事業所を頼って訪れる方もおられた。	サロン活動をしたことがない職員が多いので、どのように進めていくか指導が必要。	新サロンを活用。サロン活動に全職員が参加し、地域とのかかわりを増やしていく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域密着型の事業所として、地域の活動にも利用者の皆さんと参加していきたい。	地域の活動の利用者さん参加はできていない。	地域の行事を把握できていないので参加したくてもできない。	地域との繋がりを切らないように支援をする。地域行事の情報を把握し、利用者さんと一緒に参加する。
E. 運営推進会議を活かした取組み	仕事の都合等もあり、1度に多くの参加は難しいと思うが、多くのご家族に参加してもらえよう取り組む。	利用者家族、ご本人に参加していただく事が出来た。引き続き多くの参加を促していきたい。	参加して自宅での介護のことを話せ、聞いてもらえたことがよかった。	ご家族の参加を促し、介護をしておられるご家族の話を聞く機会を持つ。会議を通し介護者同士の繋がりを作る。
F. 事業所の防災・災害対策	BCP計画の必要性を職員で共有し、次年度も訓練から振り返りを行い災害に備える。	BCP計画書を作成し、地震、水害を想定した訓練を実施。	訓練で出た課題や反省を活かして、計画に繋げていく必要があると感じた。	BCP計画の見直し。引き続き、訓練の実施を行い災害時に備える。

